



仕事と生活～家事・育児・介護～

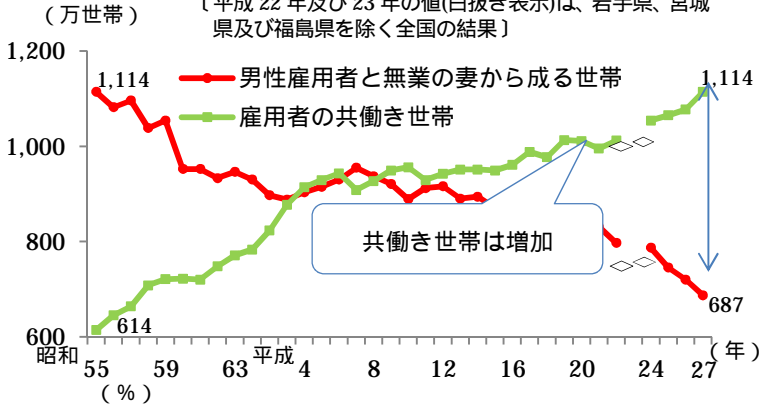
データでみる男性を取り巻く現状

男女共同参画やワーク・ライフ・バランス等は、女性だけでなく、男性も含めたすべての人にかかわる課題です。男性が、仕事と育児や介護を両立させるためには、男性の働き方や意識の改革を進める必要があります。今回は男性を取り巻く現状に焦点を当ててみました。

仕事の担い手、家庭の担い手の変化

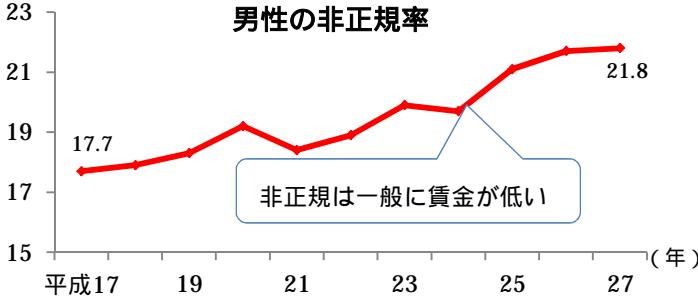
共働き等世帯数の推移

〔平成 22 年及び 23 年の値(白抜き表示)は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果〕



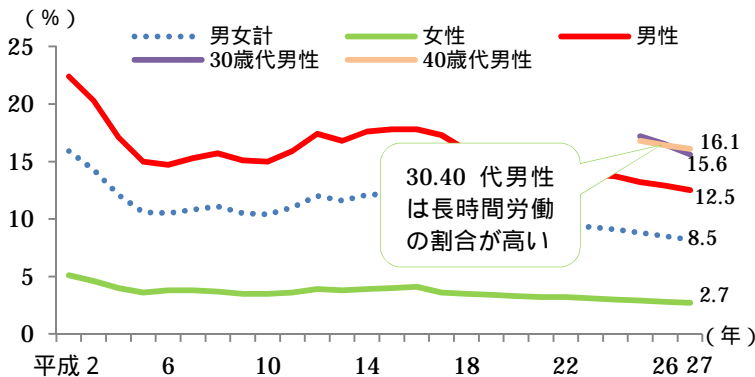
男性の非正規率

非正規は一般に賃金が低い



長時間労働の動向

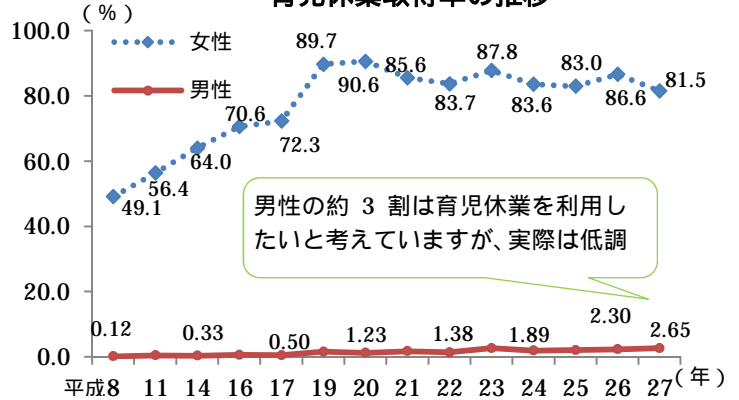
週間就業時間 60 時間以上の雇用者の割合の推移



国が行っている「仕事と生活の調和」推進キャンペーンのシンボルマークです。「仕事と生活の調和」の実現を目指して！

育児・介護をめぐる状況

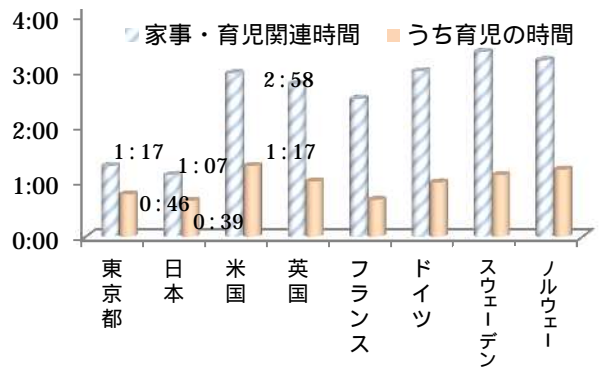
育児休業取得率の推移



男性の約 3 割は育児休業を利用したいと考えていますが、実際は低調

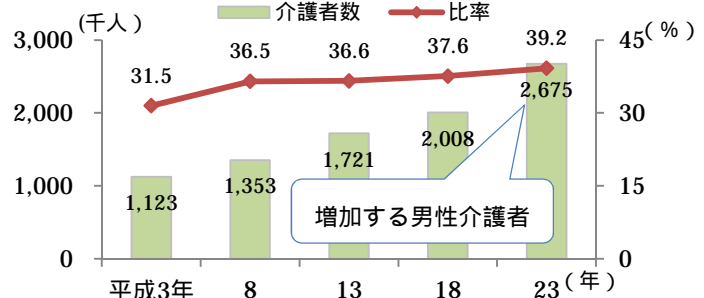
6 歳未満の子供を持つ夫の 1 日当たり

家事・育児関連時間



第 4 次練馬区男女共同参画計画では、平成 31 年度の目標として、「家庭における男性の家事・育児等への平均従事時間(1 週間)」を 16 時間としています。

男性介護者数と男性介護者の割合の推移



参考資料：男女共同参画白書(平成 26 年版・28 年版)





事実婚・内縁 同性婚 2人のためのお金と法律

今井多恵子〔ほか〕著
日本法令 2016

現代社会において、家族の在り方、パートナーの結びつき方は、多様化している。婚姻届を出していない2人のための法律・税金・社会保険からライフプランまで、それぞれの専門家がわかりやすく解説している。



とまどう男たち

伊藤公男、山中浩司編
大阪大学出版会 2016

「男」という病、寄る辺の無い若年男子、増加する男性の自殺…。男は戦闘的である必要がなくなり、Y染色体は短くなり、容貌も美しくなり、女性も社会で活躍するようになってきた。高度経済成長時代から時代が変わり、とまどう男たちに何が起きているのか？

新着図書紹介



ルポ 貧困女子

飯島裕子著
岩波書店 2016

結婚・出産してもバリバリと働き続ける女性が増えている。しかし一方で、経済的自立に足る仕事に就けず、結婚・出産を望みながらもうまくいかず、周囲からのプレッシャーに心身をすり減らしている女性もいる。アラフォー/非正規/シングル女性たちの等身大に迫るルポ。



保育園で困ったときに開く本

朝日新聞出版編
朝日新聞出版 2016

共働きが急増するなか、保育園に入りたくても入れない「待機児童問題」。保育園選び、「保活」事情、保育園生活などの疑問や悩みを解決するための指南書。わかりやすい解説やデータ、先輩ママの体験談、お金に関する情報も満載。Q & Aで95の疑問に回答。



みやぎ3・11「人間の復興」を担う女性たち

浅野富美枝著
生活思想社 2016

東日本大震災の被災地宮城において、被災女性を支援し続ける力はどのようにして培われたのか。戦後復興の過程と重ね合わせ、今地域に欠けているものは何かを考察。女性・生活・地域に視点を置き、ひとつづり、まちづくり、ネットワークづくりの重要性を訴えている。

テーマで読む1冊

迫りくる「息子介護」の時代

平山亮著

少子化や非婚化により、息子が親の介護をする「息子介護」が着々と増えている。28人の当事者からの聞き取りをもとに、不慣れな家事や介護と仕事との両立に向き合っている姿を丁寧に描き出している。また息子介護を通し、誰も悩んだり困ったりしたことのある人間関係や男社会の息苦しさを浮き彫りにしている。(光文社 2014)





時代を拓いた女たち

よしや のぶこ
吉屋 信子

1896年(明治29年)~1973年(昭和48年)

『女が女にやさしくありあわなくては。』

吉屋信子は、大正時代から昭和にかけて活躍した作家で多くの女性たちに支持された。女流文学者会の創設に関わり、初代会長となった。

信子は「私はふるさとを持たない」といっている。長州藩士出身の父は、官吏として転勤が多く、明治29年に新潟県庁官舎で信子が生まれた時は、新潟県警務課長だった。すでに上に男の子が4人いた。父が家にいる時は、皆ぴりぴりとし、骨の髄まで男尊女卑を叩き込まれて育った母と家父長として父が君臨する家庭で、家事が得意でなく、美しくもなかった信子は、母に疎まれたという。

明治35年、行政職に転じていた信子の父は、栃木県下都賀郡に郡長として転勤した。ここで足尾鉾山の鉾毒問題が発生、田中正造と関わっている。明治40年、闘争のさなかに、2歳にならない弟が病死するという悲劇が起こる。父は母を怒鳴りつけ、母は畳に顔をこすりつけて詫言った。子どもを失くした悲しみは同じであるはずなのに、なぜ？11歳の信子には強烈な思い出となる。

明治41年、栃木高等女学校に入学。講演に来た新渡戸稲造は、「あなた方は良妻賢母になる前に1人のよい人間とならなければなりません。妻や母より、まず、よき人間人なるために学ばなければなりません」。信子は「天の神の声を聴くように恍惚とした」という。が、翌日には教頭から「誤解をしないように。本校の教育方針はあくまでも良妻賢母主義だから」といわれるが、信子の感動は少しも色褪せなかった。

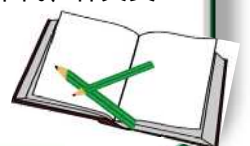
そのころから少女雑誌に作文を投稿。何度も賞に入る。卒業後は、上の学校に進学したかったが、女に学問は不要と許されなかった。思いがけず、信子の文才を評価してくれていた三男の忠明が父を説得してくれて、兄の下宿先と一緒に住むこととなる。東京に出た信子は、次々と尊敬する文学者を訪問した。岡本かの子と親しくなり、山田嘉吉・わか夫妻の英語塾に通い、「青鞥」の平塚らいてうとも知り合いとなる。大正5年、「少女画報」に投稿した「花物語」の連載が決まり、20歳の信子は天にも昇る気持ちだった。連載は、大正5年から13年まで続いた。女性が自我を持った人生の主人公として描かれ、女同士の友情をテーマにした「花物語」はベストセラーとなり、信子は人気作家となる。大正9年の元旦からは当選した懸賞小説「地の果まで」が朝日新聞で連載を開始。夫の貞操を問題にした「良人の貞操」は大きな議論を巻き起こした。大正12年、国民新聞の記者をしていた山高しげりの紹介で、生涯のパートナーとなる門馬千代と運命の出会いをする。信子は27歳、千代は23歳。信子は「ああ、夕に別れを告ぐことなく、ひとつ屋根の下に暮す日はいつのことか！男と女なれば易きことなれど 御身も女 吾も女…」と離れて暮らす千代に手紙を送っている。その後も「安宅家の人々」「徳川の婦人たち」など数多くの小説を執筆。昭和48年、戸籍上養女となった千代に見守られながら77歳で永眠。女ひとり、ペン一本で稼いだ信子は、生涯に家を8軒建て、自家用車を持ち、競走馬6頭の馬主でもあった。

参考資料：「女人吉屋信子」「ゆめはるか吉屋信子」「先駆者たちの肖像」

物を書く女たち

江戸時代には、女性の文学はほとんど日の目を見なかったが、明治になると女性たちが活躍し始める。明治以降、女性によって書かれ、初めて出版された小説は、田邊(三宅)花圃の「藪の鶯」である。花圃は、明治10年に中島歌子によって創設された歌塾「萩の舎」に10歳頃入塾し、20歳で初出版した。同じころ「萩の舎」に通った樋口一葉は、初めて作家を職業とした女性である。新聞連載小説を初めて書いたのは木村曙で、一葉と同じ年だった。明治、大正、昭和期にまたがって活躍した女性たちの多くは、「青鞥」や「女人芸術」に執筆している。昭和11年、当時の文壇は男性が主流だったため、吉屋信子、宇野千代、林芙美子らが集まって「女流文学者会」を創設、この会は平成19年まで続いた。最後の会長の津島佑子は、「女の物書きがマイノリティーだった時代には大切な基地だったが、女性作家のことを女性だけが考える時代はもう終わった」と語った。

参考資料：「女たちの20世紀・100人」



にゅーすBOX

配偶者のパート年収 150万円まで満額控除

配偶者がパートで働く世帯を減税する所得税の「配偶者控除」の見直し案が、12月1日の税制調査会です承された。現在の配偶者控除は、パートで働くパートナーの年収が103万円以下なら世帯主の課税所得を一律で38万円減らす制度で、世帯主の年収制限はない。これを、平成30年1月からパートナーの年収を150万円以下に引き上げる。パート主婦の約85%は減税の恩恵を受けられる見通し。ただし世帯主の年収が1,120万円を超えると控除額を段階的に減らし、1,220万円を対象外とする。

「出産後も仕事」65%

厚生労働省の21世紀成年者縦断調査によると、結婚後も仕事を続けたいと考えている独身女性(23~32歳)のうち、65.1%は出産後も就業継続を望んでいるという。10年前より13.8ポイント上昇した。出産を機にやめると回答したのは6.9%で、前回調査から17.6ポイント低下している。厚労省は、「企業の育児休業制度の充実などにより、出産後の就業継続意欲が高まっている」と分析している。

「結婚したくない」男性 倍増

「結婚したくない」と考える20歳代の男性は昨年度2割を超え、平成20年度の2倍近く増加したことが、国立青少年教育振興機構の調査で分かった。女性は「早く結婚したい」(25.5%)も「結婚したくない」(12.9%)もいずれも増加。交際相手がいる男女(30歳代含む)の結婚していない理由としては、63.8%が「経済的に難しい」と回答。「子どもは欲しくない」と答えた20歳代の男女は10.8ポイント増の21.9%だった。

大卒女性の初任給 初の20万台

厚生労働省の平成28年の賃金構造基本統計調査で、大卒女性の初任給が昭和51年の調査開始以来初めて20万円台に乗ったことが分かった。大卒男性は平成15年に20万円台を超えており、女性は13年遅れで大台に乗った。今年6月分の初任給は大卒女性が20万円ちょうどで、男性は20万5,900円だった。

練馬区 「ねりまちレポーター」

練馬区は、ごみの不法投棄や公園遊具の破損などを区民がスマートフォンで撮影して投稿し、区が対応する「ねりまちレポーター」(愛称・ねりレポ)を始めた。ねりまちレポーターは区内在住か在勤・在学が条件で、ねりレポホームページ(<http://nerirepo.jp>)から専用アプリをダウンロードして登録のうえ投稿する。

単身世帯 3分の1超す

総務省がまとめた国勢調査(平成27年)で、若い世代が都市部に移り住む流れに歯止めがかからず、地方での高齢化が一段と進んでいる実態が明らかになった。単身世帯が全体の3分の1を超すなど、家庭のかたちも大きく変わってきた。世帯の平均人数は2.33人となり、東京都では1.99人と初めて2人を割り込んだ。また、戦後上昇してきた30代男性の未婚率は38.9%と前回調査より1ポイント下がった。外国人の人口は6%増えた。

いじめ認知 最多22万件

文部科学省は、小中高校などを対象に、いじめや不登校の状況を調べた平成27年度「問題行動調査」の結果を公表した。いじめの認知件数は前年度より3万6,468件多い22万4,540件で過去最多。不登校は小中学校で計12万6,009人と3年連続増加し、90日以上欠席が57.4%だった。小学校ではいじめ、不登校、暴力行為がいずれも過去最多。

給付型奨学金 月3万円

政府は、平成30年度から住民税非課税世帯の学生を対象に、返済不要の「給付型奨学金」を導入し、月3万円を給付することを決めた。1学年2万人程度とし、高校などが推薦し、文科省や日本学生支援機構が対象者を選ぶ。児童養護施設出身など経済的に特に厳しい学生は平成29年度から先行実施する。また東京大学は、平成29年度入学生のうち、親元を離れ大学が用意した物件に入居する女子学生を対象に、家賃補助として月3万円を支給すると発表した。男女共同参画推進の観点から女子学生の割合を増やすねらい。

産後うつ予防健診 2回分助成

厚生労働省は、精神的に不安定になりやすい妊産婦への支援強化のため、平成29年度より「産後うつ」予防の健診費用を助成する。研究班調査で、産後うつの疑いが最も多いのは産後2週間だったため、助成は産後2週間と1か月の計2回分(1回5千円が上限)。

世界経済フォーラム

男女格差 日本111位に悪化

ダボス会議で知られる世界経済フォーラムは、各国の男女格差(ジェンダーギャップ)を比較した今年の報告書を発表した。「経済活動への参加と機会」「政治への参加」「教育」「健康と生存率」の4分野の計14項目で男女平等の度合いを指数化して順位を決める。日本は世界144か国中111位(前年101位)となり、主要7か国(G7)で最下位。

